

【青空】

扶桑北中学校

山形 弘通先生



▲ホストファミリーと

“Thank you.” “You're welcome.” 私は何度もこの言葉を耳にし、口にしました。オーストラリアでは言葉によるコミュニケーションを大切にします。

黙っていてもわかってくれるという考えはない。夫婦、親子、多くの時間を共有し、意思の疎通が円滑に行われるであろう間柄である。小さな親切に対して「ありがとう」と心で思っても、言葉にするのは骨が折れる。

しかし、その重要性はすぐに理解できた。オーストラリアはさまざまな文化を持つ移民たちが作った国である。「言わなくてもわかる。」ということはありません。

そのおかげで、ホームステイをする身として、私はずいぶん助かった。どんなことでも説明をしてくれ、意見を聞かれる。そして「ありがとう」「どういたしまして」。今まで何も知らなかったもの同士がこの言葉でつながっていく。

オーストラリアのごきまで澄んだ青い空とともに私の心を満たしてくれました。

【3回目のオーストラリア】

扶桑中学校3年

安井 舞 さん



▲ホストファミリーと

ホームステイは、とても緊張しました。しっかりと言葉が伝わるかと、自分の意思表示がちゃんとしていくかどうか不安でした。何回外国に行っても思ったようにはなりません。でも辞書を使えば簡単に会話ができます。たとえ辞書が無くても知っている単語を並べればそれだけでも伝わります。ホームステイ先に一人で泊まるのは初めてだったので、親切なお父さんとお母さん、9歳のSALLYと2歳のJUSTINのおかげで気楽に滞在することができました。お父さんはシェフで食べたことの無いようなおいしい料理を作ってくれました。お母さんは私のためにいつもゆっくりはつきり話しかけてくれました。こんなやさしいホストファミリーと過ごせた1週間はとても楽しかったです。

オーストラリアの学校ではみんな気さくに話しかけてくれて嬉しかったです。今回出会えた人たちとまた会うためにもっと英語をしたいと思えます。

【最高の Home Stay】

扶桑北中学校3年

早川 久美子さん



▲みんな smile ♡

わたしは、8月18日から25日の8日間オーストラリアへホームステイに行ってきました。最初は話がきちんとできるか、ホストファミリーとまかやっついていけるかなど、期待と不安でいっぱいでした。でも、ホストファミリーはみんな優しい人ばかりで会話するときもゆっくりわかりやすくしゃべってくれました。

学校では、グレイスとブルーというバディと会いました。2人とも明るくてとても可愛かったです。クラスのみんなもおもしろい子ばかりでした。

授業中は、りんごを食べている人や席を立っている人が多かったのびっくりしました。学校で過ごした時間は、とっても楽しかったです。

最後の日に海に行きました。超きれいでした。家族との思い出は、どれも良いものばかりです。お別れは寂しかったけれど、笑顔でバイバイできました。もう少しオーストラリアにいたかったです。8日間は最高の日々でした。

「束の間のオーストラリア」

扶桑中学校3年

市原 彰人さん



▲仲良くなれたホストブラザー

時はアツという間の出来事。自分の家に帰るまでの研修旅行での日々は、夢のようなひと時であった。異国人と会話をしたこととそこで得た生活、食べ物などこれも夢のごとく。自分にとって、めったにできない貴重な体験でした。これは僕の一生に残る思い出となり、8日間の旅はとても早いものであった。

あまり知らない同士がこのオーストラリアで仲間となり協力できたこともひとつの思い出となった。

オーストラリアのホストファミリーは、とても楽しく面白く愉快な家族であった。いつでも優しく自分にコミュニケーションをとってくれた。自分は、あまり英語がしゃべれなかったが、単語を並べて気持ちと共に通じることができた。これは自分と相手の喜びでもあり、少しだけでも達成感というものを心の中で感じ取ることができた。

オーストラリアの殆どの家に緑があり、空気も気持ち良く環境に良い街となっていました。日本もオーストラリアの町並みのように緑に包まれて、美味しい空気が吸える環境になって欲しいと思った。オーストラリアに行って、日本にとって必要な事を見つける事ができた。この様に学んだり、考える事ができ、素晴らしい研修旅行を終える事ができた。

「ずっとつながりを」

扶桑中学校3年

森 こよみさん



▲ホストファミリーと

私は小学六年生のころ、英会話を始めました。それきつかけに英語に興味を持ち始め、その年にもこの事業に応募しましたが、落選してしまいました。そのとき、姉も応募していて、当選したのです。オーストラリアでの写真を見たり、話を聞いたりして海外に行ってみたいという気持ちは、より大きくなっていました。そして今年、当選したのです。オーストラリアの空港を出て、まず眺めを楽しんだり、動物園へ行ってコアラを抱っこしたりと、いろいろ観光しました。その後、小学校に行ってホストファミリーと対面しました。私は、お母さんと七歳・一歳の女の子たちでしたが、優しく滞在もより楽しみになりました。それから家に連れてってもらって、夕食を食べたりしました。それからの日々は、小学校に行つて、バディと一緒に授業などを受けその後、みんなで買い物に行ったり、テマパークで遊んだりしました。学校ではみんなが話しかけてくれて、楽しかったです。ホストファミリーとは、海に行ったり買い物に行ったりしました。別れは辛かったけど、言葉もなんとか通じて全てが思い出し、思い出になりました。これからも手紙などで繋がりたいと思つし、英語ももっと勉強しようと思つています。

「最高に楽しかったホームステイ」

高雄小学校6年

遠藤 直樹さん



▲ホストファミリーと

僕は行く前、オーストラリアで一週間も過ごすなんて長いと思つていました。しかし、行つてみると、なぜかとても短く感じました。

僕のホストファミリーは、やさしく接してくれて、とても気をつけてくれました。初めて会ったとき、いろいろ聞かれて何を言っているかわからなかったときも、ゆっくりと何度も話してくれました。だから、少しずつ英語に慣れていくことができ、自分からも話すことができるようになりました。ホストブラザーのドミニクは、僕と同じ11歳だったので、一緒に遊んだり、映画を見たりしました。ほかに、ザック・ジョン・マイケル・ポールなど、いろいろな人達とふれあうことができました。休みの日には、ボートツアーに連れて行ってもらい、様々な鳥をみたり、釣りをしたりすることもできました。

次は、もっと英語が話せるようになってから、もう一度、絶対オーストラリアに行きたいです。